

会場4-5【長野県】文化学園長野高等学校2年生 発表を見た方からの感想

- インタビューなど人と接するやり方は、配慮しないといけないこと考えないといけないことがたくさんありそれを学びとして紹介していたことが良かったです。また、なのプロで、人とのつながりや復興について感じたこと、芽を見つけた時の感動など客観的かつ主観的な観点からも物事を見られていて良かったです。
- 被災地の方にインタビューするにあたって、「つらいことを思い出させてしまうのではないか」との配慮をすることができるのは素晴らしいと感じました。また、耕作放棄地を活用して観光地にすれば人をたくさん集めることができるのではないかという発想は、人口が少ない地域でとても役に立てそうだと感じ、これからも地域のために動いていってほしいと思いました。ありがとうございました。
- 被災者の気持ちに寄り添って取材や調査をしているのがよいと思った。地元や人を巻き込むことで大きな力が起こることを学び、そしてそれを体感していた。自分たちができることで長沼を住みやすくしようとしている姿勢がとても伝わってきた。
- 耕作放棄地について、具体的な数字を用いて問題提起しており危機感を抱いた。また、身近な解決例を調べ、そこから長沼地域にインタビューに赴いて被災者の本音や現場の様子を学んでおり、探求的に行動していて良かった。プロジェクトを通じて耕作放棄の意味を理解し、菜の花畑を人と人が繋がる場所として作っておりとても素敵な活動だった。自分も参加してみたいと感じた。
- 私も高校時代の総合の授業で長野県の観光について追及し、季節を感じられるものが観光客を集めるためのカギであることを結論として導き出しました。私は観光をテーマに調べ始めましたが耕作放棄地というテーマと観光資源をつなげたことが表面的につながっているように見えるものだけでなく、視野を広く持って追及できたという良い点だと思います。
- 耕作放棄地については今までほとんど考えたことがなかったので、とても興味深い発表でした。耕作放棄について自分は活用できるのに人手不足で無駄になってしまっている地という認識しかなかったが、耕作放棄地となっている畑には先祖代々の思いが詰まっているという視点を持つことができました。
- 被災者の本当の気持ちなどを取り入れて発表してくれたおかげで、画面の裏の現状を知ることができました。これから先、そのことも意識しながらニュースを聞けそうです。一つ一つのことをよく考えていて、深い考察ができていて感心しました。これからも頑張ってください。
- 課題を解決するために自然と観光を組み合わせることの画期的なアイデアを生み出すだけでなく、その活動の参考になる人に実際にインタビューをすることでその当時の様子やこの活動に至るきっかけなど、地域を巻き込むことで大きい企画を立てることができると学んだ。またその活動は決して簡単なものではなく、体験してみないと分からない大変さや困難さを感じたことが伝わった。
- 放棄された田畑を、花などを植えて観光産業として再利用しようとする考えは素晴らしいと思った。さ

らに、放棄された田畑を再利用することは様々な懸念点があることを考察し、多角的に何をすべきか考えられていたので良かった。

- 耕作放棄地について知らなかったのが、今回の発表で耕作放棄地を大切に有効活用することが被災地復興の手がかりになる事を知りました。社会全体で本来の意味で被災地の為になる復興支援を行う事が重要なのではないかと強く感じました。
- 台風19号の厳しい現実を生きている人々に、勇気を持ってインタビューを執行することで、被災者と社会を繋ぎ、災害を風化させない行動を起こすことができたのだなと感じました。たくさんの経験を通して深く考え、新しい行動に移している姿は本当に素晴らしいと思います。大学1年ですが、自分にこのような活動ができるのかと思うと自信がありません。来年度以降、長野市に住みます。活動に参加出来たらなと思いました。
- 実際に被災した方の本音を聞いたうえで、被災者の気持ちに配慮してインタビューを進めていったことが伝わりました。実際に取り組む中で、「周りを巻き込むこと」の重要性を意識しながら活動できているのが良いと思いました。伝統と、新しいことへの取り組みとを融合させるにあたり双方の歩み寄りが重要だと思いました。
- 地域の人と積極的に関わり、その交流を通して、より住みやすい長沼にするためにはどうしたらいいのかについて協働的に考え取り組んでいる姿に感銘を受けました。プロジェクトを通して、耕作放棄地に対する見方を改め、今後どのように自分たちが関わっていきたいのかをしっかりと考えているのも、ただやるのとは大きな差を生んでいると強く感じました。
- 被災した方の本音について言及していて、このようにネットや人文などで調べるだけではわからないような情報を得ていて良いと思った。また、発表から周りの人を巻き込んで、自分たちだけではできない大きなことを成し遂げることの素晴らしさを学んだ。
- その地域ならではの問題に目をつけて、他の県の現状の比較や分類などができていて、素晴らしかったです。またそこから今自分たちにできることを提示し実際に行なっていると知りこれからも頑張りたいと思いました。
- 耕作放棄地に関する知識があまりないのですがとても分かりやすく聞いていて興味を持てる発表でした。実際に被害に遭った方と交流したうえで問題の解決策を考えていてとても良い取り組みだなと感じていました。
- 被災地の復興は、被災地を盛り上げたい気持ちと現地の方の心情をおもんばかる気持ちで悩むことも多くあると思いますが、どうにか力になりたいという思いは伝わっていると思います。農業をやめる人が多いならば、農業をやめる前にその土地を次に利用する人やその目的がはっきりすると農地の持ち主も安心なのではないかと感じました。

- 実際に被害にあった人にしかわからないことがあるということに非常に共感しました。私は東日本大震災の際に、青森県にいましたが甚大な被害が出たところでは避難場所でも油断できないと親戚(岩手県)が言っていたことを覚えています。ボランティアの人だけではないのですが、破壊された家やマンション、避難所などで他人の物を盗む人がいたというのです。被害のあったところを少しでも改善しようとするのはいいことだと思いますが、自分たちが思っている以上に被災地の方々は様々な不安をもってこのことを知り、配慮しながらそのような活動を自分もしていかななくてはならないと改めて感じました。
- 耕作放棄地は地方に住んでいると、度々問題として挙げられるため、認知度はそれなりに高いと思っていますのですが、問題自体は知っていても、それに対して何が行われているのかは知らなかったもので、耕作放棄地に新たな役割を持たせようという試みに関してはとても学びになりました。活動に取り組む際、人数不足などが発生したときに自分たちで協力を求めたりして、考えながら行動している姿勢が素敵だと感じました。
- 放置されたままの土地に対して今まであまり目を向けてこなかったのが、今回の発表で新たな問題に気付かせてもらった。近年では耕されないまま放置されている土地も多いが、それを利用した活動を行うことは、地球上の自然を守るうえで非常に効果的であると感じる。
- 耕作放棄地にどのようにアプローチしていくかと最初に考えていたところから、最後は耕作放棄が意味する人々の思い・ストーリーを大切に考え、実際に地域の方と一緒に活動しており、非常に学びの深い発表でした。耕作放棄地に実用性だけでなく、人々の思いとつながりを大事にした場としての価値を見出しているのがとても素敵だなと思いました。
- 耕作放棄地の数が長野県は全国三位であることに驚きました。自然と観光を結びつけるという発想は簡単にはいいとは言えない理由があることを感じました。農業を経験したことがないのに、一生懸命に作業されたことは大きな前進だと思います。人とつながる力って本当に偉大だなと話を伺い、感じました。後輩へとバトンをつなぎ、その活動を継承していくことは大事だと思います。ナノプロには深い意味が込められているのだなと感じました。
- こちらの発表を聞いて、「育てること」について新たな知識を具体的に学ぶことができた。全体を通して、そのものについての価値や存在意義などを考え、自分たちの学んだことを行動に移すことまで行うことで、これから、どのようにみんなで高めあっていくのかということや、みんなでつながる方法というものを新たに気付くことができたように思う。これからも応援しています。
- 地元の人たちが繋がれば、力になることができるという言葉がとても印象になりました。疑問に思ったことや、わからないことは調べたり、現地の人に聞いたり、様々な体験をし、活動を行なっていることがわかりました。こうした活動は高校生だけではなく、大学生、地元の方々を巻き込んで行なっていくべきだと感じました。